

ガラス壁装材の標準施工

施工方法の種類と概要

ガラス壁装材の施工は、壁材や接着剤あるいは取り付け金具などの発達で工法的にもかなり進歩しています。しかしながらガラス壁装材の使用条件は千差万別です。施工方法は、目的、取り付け場所および取り付け面積などにより異なります。

取り付け場所及び規模		施工方法	内容	最大面積	図番 (P.100,101)
壁面	単板装着	接着方法	●ミエミラーボンドと両面接着テープによって施工する方法です。	0.5㎡/枚	①
		ビス止め方法	●ガラス壁装材の4隅に孔あけ加工をして化粧ビスでとめる方法です。この場合、両面接着テープと併用してください。	1㎡/枚	②
		受け金具方法	●ガラス壁装材の上・下に金具を取り付け、下部の受け金具でガラス壁装材の重量をささえ、上部の止め金具でガラス壁装材の転倒を防ぐ施工方法です。	2㎡/枚	③
	連続装着	大板接着受け金具方法	●床から天井まで1枚のガラス壁装材を取り付ける施工方法で、ガラス重量を幅木または支持金具で受け、上部は転倒防止用の押え金具を使用してください。	5㎡/枚	④
		段積接着隠し金具方法	●ガラス壁装材を段積施工する方法です。この場合、横目地にはガラス壁装材の重量をささえる隠し金具を使用してください。	3㎡/枚	⑤
		段積接着突付け方法	●1㎡以下のガラス壁装材を段積突付け施工する方法です。	1㎡/枚	⑥
柱面	単板・連続装着	柱巻施工	●柱巻施工は、壁面と同様の施工方法によりますが出隅処理および入隅処理があります。	壁面と同様	⑦
天井面		接着押え金具方法	●ガラス壁装材を天井に施工する方法です。	600mm×600mm/枚	⑧

※ガラス工事(JASS-17)参照

下地材の選択

ガラス壁装材を内装材として使用する場合、施工後のゆがみの有無、耐久性等は下地材の良否に左右されます。また、下地材の種類によって施工方法はかなり異なりますので設計段階から検討してください。

項目	下地材			
	耐水合板	耐火ボード	モルタル塗仕上げ	コンクリート打放し
下地の平面性	○ ●900mm×1,800mmの耐水合板使用の場合平面性は良くなります。 ●耐水合板は9mm厚以上のものを使用します。	○ ●平面性は比較的良くなります。 ●一般に900mm×1,800mmの石こうボードを使用します。 ●耐火ボードは9mm厚以上のものを使用します。	× ●金コテで仕上げるため、平面性は良くありません。	× ●打放しのコンクリート面は、打込時に型枠がコンクリートの自重などを受けて変形するため、平面度はほとんど出なくなります。
施工開始の時期	●下地施工後、直ちに施工できます。	●下地施工後、直ちに施工できます。	●モルタル(厚さ2~3mm)塗後1ヵ月程度の乾燥期間をおく必要があります。	●コンクリート打込み後、2ヵ月以上の乾燥期間をおく必要があります。
接着剤との関係	●特に問題はありませぬ。ただし、両面接着テープのみの施工はできません。必ずミエミラーボンドと併用してください。	●両面接着テープとミエミラーボンドのみの施工はできません。必ず金具と併用してください。受け金具、隠し金具は胴縁に固定してください。	●モルタル、コンクリートともに吸水性が大きく、一旦乾燥した状態でも施工後に吸水することがありますのでミエミラーボンドと受け金具を併用してください。	●モルタル、コンクリートともに吸水性が大きく、一旦乾燥した状態でも施工後に吸水することがありますのでミエミラーボンドと受け金具を併用してください。

ガラス壁装材の標準施工

接着剤・目地シーリング材

・ミエミラーボンド（鏡・ガラス壁装材専用接着剤）

- ①1成分形なので、作業性にすぐれています。
- ②鏡などの銀面や塗膜面を侵すことはありません。
- ③硬化後も弾力性を保持するので、建物の振動や地震による変位にも追従できます。
- ④鏡・ガラス壁装材をベニヤ板・モルタル等の室内壁面下地材に標準施工する場合に用います。（タイルやクロス面には使用できません）
- ⑤天井施工の場合は、壁装材1枚の最大寸法を600mm×600mm程度とし、重量を受けるための金属支持具を必ず併用してください。
- ⑥荷姿：カートリッジ（333ml／本）



・両面接着テープ

- ①両面接着テープは、ミエミラーボンドが硬化するまでの間、鏡・ガラス壁装材を保持（仮止め）するために使用するものです。
- ②接着面積 10cm×10cm角10枚以上／ガラス壁装材1㎡
- ③引張り強度 0.1MPa程度
- ④使用前に、プライマー塗布が必要です。
- ⑤両面接着テープは積水化学工業（株）のスポンジテープ#2310を使用してください。



両面接着テープのみでの施工は脱落の危険性がありますので、絶対にしてしないでください。

・シリコン系シーリング材（オキシム型）

- ①高品質の1成分形なので作業がしやすく、誰にでも簡単に取扱うことができます。
- ②目地への充てん時には、ガラス裏面の塗膜にシーリング材が回り込まないようにバックアップ材を事前に詰め込んでください。
- ③ガラス壁装材の色に合わせてお選びください。

ミエミラーボンド販売元

株式会社 東商セントラル

本社：〒101-0054	東京都千代田区神田錦町三丁目5番地1号	03 (3259) 7447
大阪支店：〒550-0013	大阪府大阪市西区新町1丁目10番地24号（四ツ橋YHビル）	06 (6537) 1021
名古屋営業所：〒486-0804	愛知県春日井市鷹来町米野4387-1	0568 (81) 0218
松阪営業所：〒515-0001	三重県松阪市大口町1521番（セントラル硝子 松阪工場内）	0598 (51) 0838

清掃、安全性について

- ①ガラス壁装材は定期的に清掃していただければ長期にわたって美しい光沢を保つことができます。
- ②汚れの程度により、からぶき、水洗い、ガラスクリーナーで清掃してください。



施工上のご注意

施工方法	●大板接着受け金具方法 ●段積接着隠し金具方法 ●段積接着突付け方法 ●接着押え金具方法
下地材	●耐水合板、耐火ボード等を使用してください。
接着剤	●ミエミラーボンドを使用します。硬化までに時間がかかるので両面接着テープを併用します。両面接着テープの強度を向上させるため、プライマー処理が必要です。 ●シリコン系シーリング材は、オキシム型でもガラス裏面の塗膜に悪影響をおよぼすおそれがあるため、接着剤として使用しないでください。
シーリング材	●シリコン系シーリング材（オキシム型）を使用してください。
目地	●3～4mmが標準ですが、目地をとらない場合でも地震などによる破損を避けるため最低1mmはとってください。 ●シリコン系シーリング材を使用する場合は、シーリング材が直接ガラス裏面の塗膜に当たらないようにバックアップ材を使用してください。
特記事項	●ガラス壁装材の1枚の高さが3mを超える場合は呼び厚さ6ミリ以上が望ましい。 ●天井構成材は、ガラス壁装材の重量を支える強度が必要です。 ●下地材が耐火ボードの場合は、段積接着隠し金具方法が望ましい。

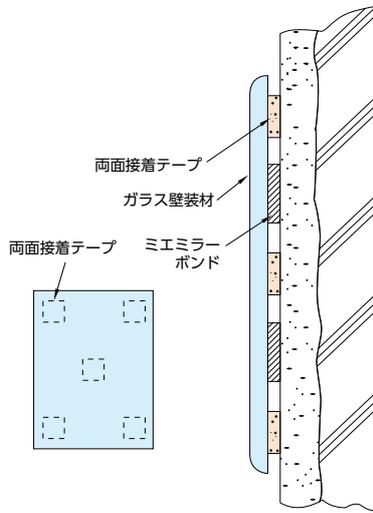


その他の注意事項

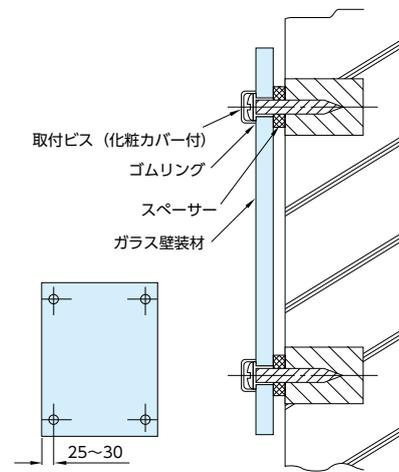
- ①間柱や胴縁のピッチは、取り付けるガラス壁装材の重量により決まりますが一般に450mmピッチで40mm×40mm以上がよく乾燥した桧または杉材を使用してください。（金属製の下地材の場合もピッチは同様です。）
- ②下地壁や下地材はよく乾燥していること。乾燥が十分でないとし施工後、湿気のためガラス壁装材の塗膜面が侵されることがあります。
- ③映像を美しく見せるには、下地材の平面精度を壁面全体で±2mm以下になるようにしてください。
- ④ガラス壁装材と下地材は3mm程度の隙間を設けるようにしてください。
- ⑤壁紙、クロス張り、レザー張りなどの下地材は支持力が期待できません。ガラス壁装材を取り付ける部分はそれらを剥がす必要があります。
- ⑥ガラス壁装材と金具、ビスなどが直接触れないように緩衝材を使用してください。
- ⑦ガラス壁装材の突き合わせ部の端面をクリーンカット（切断後の状態）のまま施工すると光線の関係で端面が光りますので#120以上のフチ仕上げを行ってください。
- ⑧直接日光の当たる外装、また高熱を使う調理室などでの使用は避けてください。

ガラス壁装材の標準施工

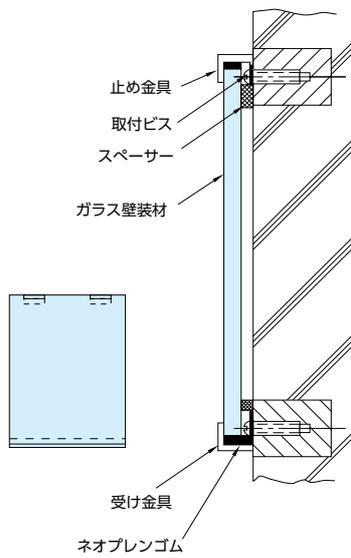
① 接着方法



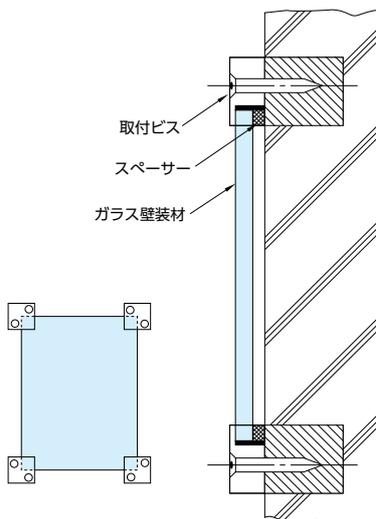
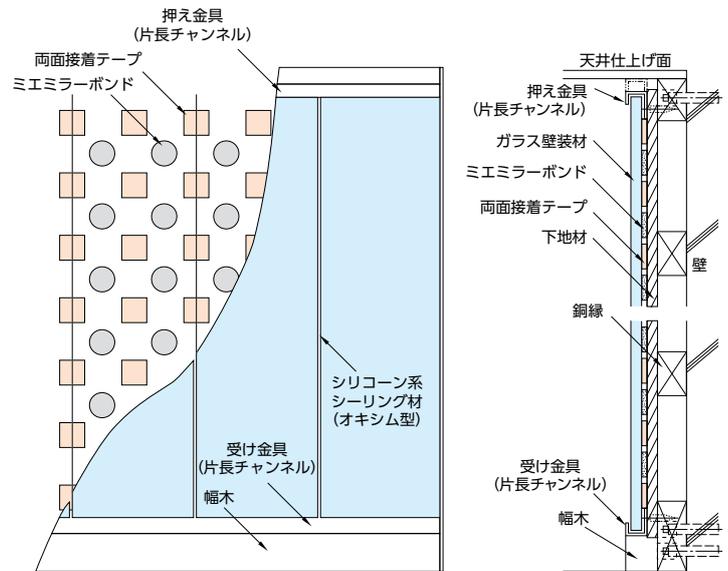
② ビス止め方法



③ 受け金具方法



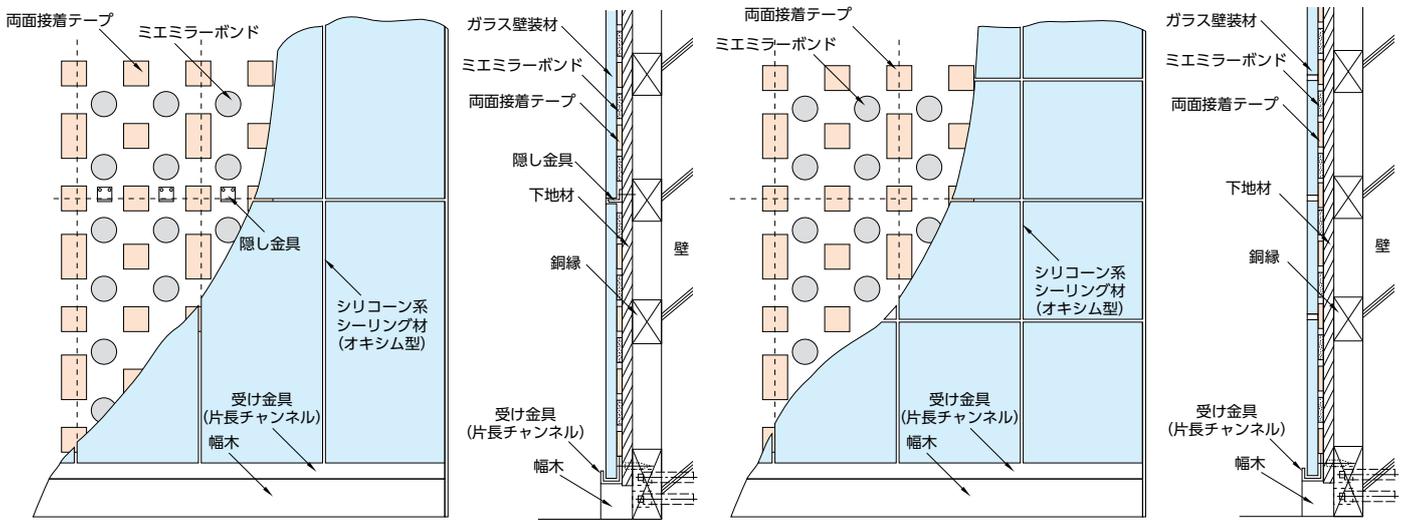
④ 大板接着受け金具方法



ガラス壁装材の標準施工

⑤ 段積接着隠し金具方法

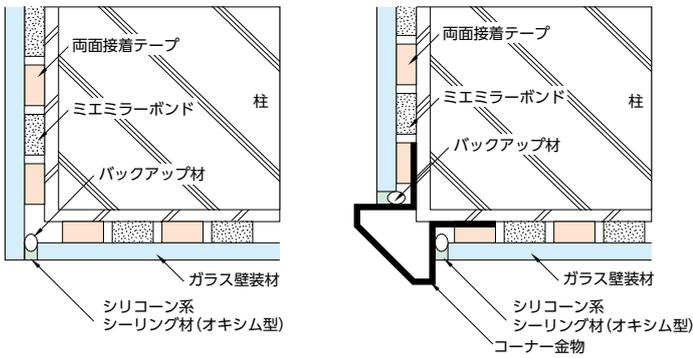
⑥ 段積接着突付け方法



⑦ 柱巻施工

⑧ 接着押え金具方法

出隅施工例



入隅施工例

